

KYOTO Design Lab SYMPOSIUM with Paul Meurs [STEENHUISMEURS 主宰] 金野幸雄 [一般社団法人ノオト代表理事] 中川理 [京都工芸繊維大学教授]

後援 日本イコモス国内委員会、DOCOMOMO Japan

主催 京都工芸繊維大学大学院建築学専攻、KYOTO Design Lab

保存再生学特別研究会

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース

Theme

Conservation and Practical Use of Modern Cultural Heritage 近代文化遺産における活用の意味を考える



Strijp-S (旧フィリップス工場) / オランダ・アイントホーフェン



篠山市集落丸山

Schedule

Sunday 18 February, 2018
2018年2月18日[日] 13:30 -

Venue

60th Anniversary Hall, Kyoto Institute of Technology
京都工芸繊維大学 60周年記念館 2階 大セミナー室

Summary

2014年度から大学院特別教育コースとしてスタートした「建築都市保存再生学コース」も、今年度末で3年目を終える。この間、コースでの教育と並行して実施してきたシンポジウム・特別研究会では、近代建築の保存・活用・再生における課題を、海外を含む多くの学外の専門家をお招きして議論してきた。近代建築の保存において重要なことは、歴史遺産としての建築を日々普通に「活用」すること、つまり「使い続ける保存」への取り組みである。現在、国においても文化財保護法改正の検討が進められているが、その検討課題のなかにも「近代の文化財の保存と活用の在り方の検討」が上げられている。“文化財の「活用」とは「公開」と同義語である”と語られ

てきた時代は既に過去のものになり、建築は「活用」することによってのみ保存できるということが社会的にも理解されつつある。しかし一方、歴史遺産として価値の高い建築は、ただ「活用」されればよいというものではない。現代の社会の中でその価値を守りながら「活用」されることが重要なのである。今回の特別研究会では、建築都市保存再生学コースの過去3年間の取り組みの総括として、オランダよりお招きしたミュルス氏、金野氏や中川教授とともに国外事例や文化財保護法改正の動きも視野に入れながら、歴史遺産の「活用」とはどうあるべきなのかを改めて議論したい。

Program

- 13:30 趣旨説明 田原幸夫 [京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授]
- 13:50 講演1. 中川理 「建築と都市の保存・活用・再生」
- 14:30 講演2. 金野幸雄 「歴史的資源を活用した地域再生」
- 15:10 休憩
- 15:20 講演3. ポール・ミュルス「Reuse, redevelop and design in modern historic cities」逐次通訳あり
- 16:50 座談会 金野幸雄+ポール・ミュルス+中川理+田原幸夫+笠原一人[京都工芸繊維大学助教] 逐次通訳あり
- 18:00 講師・参加者による懇親会 @プラザKIT(会費制)

定員 | 90名

入場無料

(申込不要、当日先着順)